

平成25年5月28日

第110号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



残雪の平標山（群馬県みなかみ町）
（撮影者：利根沼田森林管理署 中澤 文彦）

「平成25年度関東森林管理局重点取組事項」

総務企画部 企画調整課

私と国有林「森と人が生きる里山」再生をめざして

土湯温泉観光協会 事務局長 池田 和也氏

平成25年度関東森林管理局重点取組事項

「公益重視の管理経営と地域の森林・林業の再生」

総務企画部 企画調整課

公益重視の管理経営の一層の推進

関東森林管理局では、一般会計の下で公益重視の管理経営の一層の推進及び我が国の森林・林業再生への貢献を旨として、民有林との連携に積極的に取り組みつつ、これまで以上に計画的かつ効率的な事業運営を行います。

関東森林管理局では、国土の保全、地球温暖化防止及び生物多様性の保全等公益的機能の維持増進を旨として、森林整備事業や治山事業の計画的かつ効率的な実施、保護林制度による原生的な森林生態系の保全・管理などを通じて、公益林として適切に管理経営を実施します。

計画的かつ効率的な森林整備事業の実施

地域管理経営計画等に基づき、適切な事業を推進し、森林吸収源対策として必要な間伐面積の確保に努めるとともに、林道と森林作業道等を組み合わせた効率的な路網整備を進めます。

事業実施に当たっては、低コストで高効率な作業システムの定着、コンテナ苗の導入等、民有林のモデルとなるような効率的な事業実施を行います。

治山対策

集中豪雨等によって被災した緊急性の高い荒廃山地の復旧整備等を行うとともに、山地崩壊地の復旧、過密化した保安林の整備等により国土強靱対策を推進します。

治山事業等の森林土木工事の実施に当たっては、「新農林水産省木材利用推進計画」に基づき、木材の特質を考慮しつつ緑化基礎工、法面保護工等に間伐材を積極的に利用するとともに、間伐材を活用した型枠合板を利用するなど、木材の利用促進に取り組みます。

生物多様性の保全

保護林や緑の回廊等の適切な保全・管理を進めます。特に、一昨年世界自然遺産に登録された小笠原諸島において外来種の駆除対策をはじめと



国有林准フォレスターによる支援活動

する保全・管理に取り組みます。

野生鳥獣被害への取組

近年、生息域が拡大し、森林植生への被害が深刻化しているシカなどの野生鳥獣への対策について、地域の協議会に積極的に参画し、地方公共団体やNPO等と連携しつつ、被害状況や生息状況の把握に努めるとともに、捕獲などによる個体数管理、シカ防護柵の設置による被害の防止などの総合的な対策を積極的に推進します。

森林・林業再生に向けた貢献

我が国の森林・林業の再生に向けて、国有林の組織、技術力、資源を



小笠原諸島での薬剤による外来種駆除



低質材のシステム販売（バイオマス発電燃料）

活用し、民有林と連携した施業の実施、森林・林業技術者等の育成、低コストで効率的な作業システムの提案・検証や先駆的な技術・手法の事業レベルでの試行を通じて、民有林に対する支援に積極的に取り組みます。

また、国有林に関する情報の受発信を進め、開かれた「国民の森林」としての管理経営にも努めていきます。

○民有林と連携した森林整備の推進

森林共同施業団地の設定に加え、新たに制度化された公益的機能維持増進協定などを活用し、隣接する民

有林と一体となった路網の整備、計画的な間伐の実施を推進します。

○人材の育成

市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行う「准フォレストラー」や林業専攻道の設計・作設および管理等を担う技術者を育成するための研修への講師派遣、フィールド提供等を通じて人材育成を支援するとともに、国有林職員を准フォレストラーとして育成し、市町村行政への技術的な支援に取り組みます。

○間伐の低コスト化と民有林への普及・定着

民有林関係者を含めた現地検討会の開催により、森林作業道と高性能林業機械を組み合わせた低コストで高効率な作業システムの普及・定着を促進します。

○木材の安定供給

森林整備により生産される間伐材等については、地域の需要や木材市況動向等を踏まえ、一般市場への委託販売のほか、国産材の需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む製材工場や合板工場との協定に基づいて国有林材を安定的に販売する仕組み（システム販売）の活用により、流通加工体制の整備に貢献していきます。

特に、システム販売については、

製材用材、合板用材の他、土木用資材、チップ原料としての活用やバイオマス発電用燃料への林地残材の活用のために積極的に取り組み、木材利用の拡大に努めます。

あわせて、民有林材と連携したシステム販売を検討、実施することとしています。

東日本大震災からの復興・復興への貢献

東日本大震災で被災した海岸防災林等の早期復旧や東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質に汚染された国有林の除染に全力で取り組みます。また、除染に必要な



落葉等の堆積有機物の除去作業

な仮置場についての市町村等からの貸付要望に積極的に対応します。

○海岸防災林の復旧等

東日本大震災により被災した海岸防災林や林道等の復旧については、市町村策定の復興計画等を踏まえ早期復旧に取り組みます。

海岸防災林の再生に向けては、生物多様性に配慮した樹木の生育基盤の造成等を進めます。

○国有林の除染の推進

「放射性物質汚染に関する特措法」に基づき、汚染状況重点調査地域内にある国有林については、当局に設置した「森林放射性物質汚染対策センター」を中心に、関係市町村と連携しながら着実に除染を進めます。また、森林除染の技術確立に向け、林野庁と局署が連携しながら実証事業に取り組むとともに、その成果について、関係機関への情報提供を行います。

○国有林の提供

除染に必要な仮置場について、除染事業を実施する市町村等から要請があった場合は、国有林の提供に積極的に協力します。

『グリーンフェア2013』

～in 敷島公園まつり～

森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、昭和51年から毎年春に、森林・林業や国有林野事業をPRする「グリーンフェア」を実施しています。今年も昨年に続き、4月29日、県立敷島公園で行われる「敷島公園まつり」と共催で実施し、会場内に設けられたグリーンフェアゾーンにおいて、(公社)群馬県緑化推進委員会、(財)森林林業振興会前橋支部、日本野鳥の会、NPOぐんま緑のインタープリター協会などと一緒に出展し、「みどり」を守り・育て・活かすことの大切さを発信しました。



木のしおり作りコーナー



木の漢字クイズコーナー

当日は、晴天にも恵まれ、敷島公園まつり全体で約1万5千人の方々が来場しました。

関東森林管理局のブースでは、赤谷森林ふれあい推進センターも参加して、「木のしおり作り」や「木の漢字クイズ」、国有林での取組を紹介するパネル展示を行い、大いに賑わいました。

しおり作りでは、子供たちがヒノキの台紙に押花や押葉を自由に貼り付け、オリジナルのしおり作りに夢中で取り組み、漢字クイズでは、子ども編から上級編までの4段階で用



「とばしてみよう!ロケットリーフ」

赤谷ふれあい推進センター

意した問題に、子どもも大人も真剣になって挑戦していました。参加者からは、「木の名前は知ってるけど読めない字が多い」、「漢字を見て沢山の種類の樹木があることに気づかされた」といった声が聞かれました。

また、パネル展示のコーナーでは、小笠原諸島の世界自然遺産や赤谷プロジェクト、福島での海岸防災林の再生等の取組について、パネルやDVD映像で紹介し、「小笠原諸島の外来種の問題に興味を持った」、「福島県海岸防災林の再生の取組を子どももよく理解した」といった感想をいただき、関心の高さを実感しました。

私たちのブースでは、緑の募金にご協力いただいた方や漢字クイズの挑戦者に、作って遊ぶ空飛ぶタネの模型「ロケット・リーフ」やヒノキの球果のストラップ作成キットが配

られ、輪ゴムで飛ばしたロケット・リーフの舞い降りてくる姿が、来場者の興味を集め、当ブースの賑わいに一役買っていました。
あわせて、グリーンフェアゾーンでは、(公社)群馬県緑化推進委員会、群馬県、前橋市、(一財)群馬県森林・緑整備基金との連携による「緑の募金推進中央キャンペーン」として苗木配布会を開催し、広く緑化の普及を図るとともに、緑の募金への協力をいただきました。



「緑の募金にご協力をお願いします!」

元気な声で呼びかける「緑の少年団」



今年も大盛況、苗木配布会

「緑の募金推進中央
キャンペーン」会場

高尾の森から

高尾森林ふれあい推進センターでは、「森林とふれあいたい」という都民の要請に応えるため、様々な活動を行っています。そのいくつかをご紹介します。

【直轄事業】

一般公募した会員（約50名）を対象に、林業体験や森林教室を実施して森林・林業への理解を深めていただく事業である「森林カレッジ」は、年5回実施しています。講師には、大学教授や研究者等にお願ひし、森林の見方や樹木の仕組みなどについて



森林カレッジの講義の様子

て幅広くかつ深い内容で行っています。「森林カレッジ」は平成7年からスタートし、カレッジの卒業生は800名を超えています。卒業生の有志からなる森林ボランティア団体もできています。

また、毎回参加者を30名程度公募して森林とのふれあいを楽しんでいただく「公募イベント」も行っています。木工体験や炭焼き体験、ツル籠づくりなどの内容で、年5回実施しています。

【委託事業】

毎回参加者を公募して高尾山の自然を解説しながら散策する事業である「森林ふれあい推進事業」は、関東森林管理局長と森林インストラクター・東京会会長との間で委託契約を結んで実施しています。



公募イベント「子供樹木博士」の様子

平成24年度は21回実施しました。この中には、春のスミレ観察会や樹木ウォッチング、セッコクという珍しい着生ランの観察会などのほか、陣馬山から影信山を経て高尾山までを歩く三山踏破といった健脚向きのイベントもあります。森林インストラクターが実施者となつて毎月1回以上開催しているので、四季を通じて高尾山の自然にふれることができます。

【個別対応】

こうした活動のほかに、学校や企業などから依頼を受けて実施する森林教室や林業体験があります。最近では当センターの活動が広く知られるようになってきたせいか、年間を通じてたくさんの方の依頼があります。依頼者は小学校と中学校が中心ですが、



保育園児を対象とした森林教室の様子

中には保育園からの依頼もあります。このため、園児たちに興味を持ってもらえるよう紙芝居を使うなど工夫しながら実施しています。

【新たな取り組み】

今回の国有林野事業の一般会計化により組織の見直しが行われ、名称が「高尾森林センター」から「高尾森林ふれあい推進センター」に変わりました。これに伴い、新たに自然再生や移入種対策などがセンターの活動範囲となりました。どのような活動ができるか今後検討していきますが、高尾山の貴重な自然が後世に引き継がれるよう関係機関と連携を取りながら進めて行きたいと考えています。



小学校教員を対象とした森林教室の様子

私と国有林

「森と人が生きる里山」再生をめざして

土湯温泉観光協会 事務局長 池田和也

私が住む土湯温泉は、福島市西部地区にあり、磐梯朝日国立公園の吾妻連峰の山麓にあります。温泉地の周囲は、針葉樹と落葉樹の混交林に囲まれ、温泉街の中心には国土交通省の直轄河川である荒川が流れている風光明媚な温泉地で、現在11軒の旅館がこの渓谷沿いに立ち並んでいます。

この土湯温泉は、聖徳太子の開湯伝説から始まり、鎌倉時代に書かれた「吾妻鏡」に「つちゆ」という名が記載されているなど歴史ある温泉地です。古くは吾妻山山岳信仰の宿坊、会津や二本松方面へ向かう宿場町、そして福島近在近郊の湯治場として発展してきました。

いつの頃からかは不明ですが、昭和30年代の頃までは周囲の山々の落葉樹を利用しながら炭焼きが盛んに行われ、湯治宿を兼業としながら生活が営まれてきました。いまでも、近隣の山林では炭焼き釜の跡があちこちで見られます。



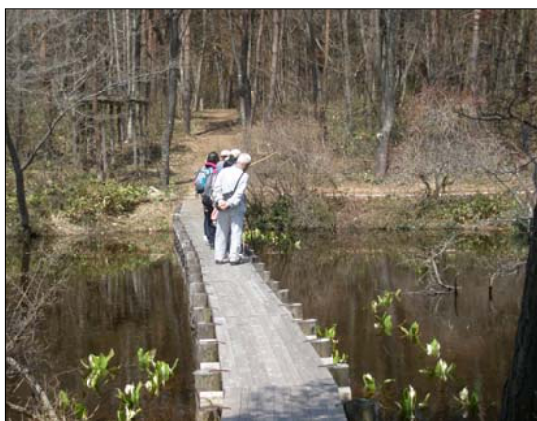
土湯温泉全景



土湯こけし



きぼっこの森を散策するハイカー



きぼっこの森に整備された木道

江戸時代末期の頃には、会津方面から木地と言われる木工製品（木を削って作ったお椀や皿、箸など）づくりが伝来し、それが発展して東北3大こけしの一つと言われる「土湯こけし」が誕生し、多くの土湯こけし工人を輩出し、観光のお土産品として人気を得た時期もありました。土湯温泉は、生活の糧として森を最大限のパートナーとして活用してきたと言っても過言ではありません。しかし、日本の経済成長とともに温泉の形態も、「湯治」から「観光」という姿へ変化し、旅館業やお土産

店は専業でも生計を立てることができるとなりました。一方では、燃料が木燃料から化石燃料へ移行し、また建築資材も価格が安い外材輸入が当たり前となったことから、人間の生活環境の変化と共に森の手入れが悪化し、周囲の里山を荒れさせてしまっていました。このような状態は全国的でもあり、熊や猿といった生息動物の行動変化や動植物の多様性にも変化を及ぼし、社会問題となっています。

この里山が荒れた中であっても、土湯温泉は土湯温泉観光協会が中心となって、福島森林管理署と連携しながら健康保養散策路等を整備し、里山の癒し効果を提供してきました。そして、最近では「家の裏山」という身近な里山づくりを進めるきっかけづくりとして、平成22年から「土湯

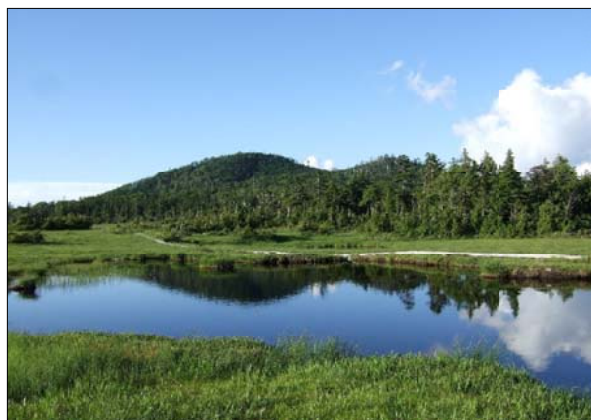
の森づくりプラン」事業をスタートさせ、国有林伐採跡地に5年間かけてボランティア100人によるヤマモミジ100本の植林と「土湯ふれあいの森」という里山管理制度を進めています。さらに、山あいに点在する戦後開拓の遊休農地（過疎と離農）を再整備し、山菜（ヤマウド・行者ニンニク）、薬草、菜の花等を栽培し、森と人が共存できる里山づくりを進めています。

自然を壊すことは簡単ですが、元へ戻すことは大変な時間と労力がかかります。

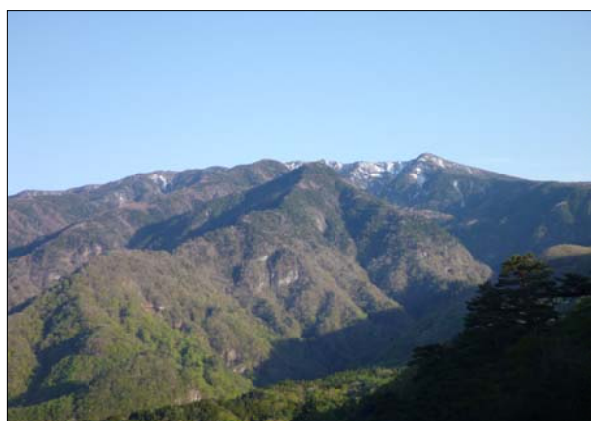
将来の地域の宝として子孫に残すために、子供の頃に駆け巡った里山の思い出を持つ我々が、我々の手で一個一個飽きずに森を整備し、ふれあいを通じて「土湯の里山」を再生していきたいと思っています。

森づくり最前線

日光森林管理署 黒部森林事務所 首席森林官 益子 茂



鬼怒沼から見た鬼怒沼山



瀬戸合峡から見た帝釈山

私が勤務する黒部森林事務所（黒部・川俣担当区）は、利根川水系最大の支流、鬼怒川が流れる栃木県北西部の日光市（旧栗山村）に位置し、鬼怒川上流の約26,300㍍を管理しています。

当事務所管内の国有林の標高は、500㍍～2,000㍍超と起伏に富んでいるため、森林植生も多彩なのが特徴で、黒部管内はスギ・ヒノキの人工林、川俣管内がブナ・ミズナラ・カラマツ等の天然林主体となっており、管理面積の9割以上が保安林ならびに国立公園に指定されています。

旧栗山村の景勝地としては、栃木の景勝100選にも選ばれた瀬戸合峡があります。下を覗くと吸い込まれそうなその深度は100㍍に達し、その岸壁が2㍍に渡って続き、とりわけ紅葉がもたらす自然景観は圧巻です。

また、鬼怒川の源流として群馬県境に位置する奥鬼怒湿原（標高2,020㍍）は、国立公園特別保護地区に指定され、環境省の日本の重要湿地500に選定された湿原で、「日本で最も高い高層湿原」と言われ、周囲4㍍に47の池塘が点在し、ワタスゲ、ミズバショウなどの高山植物や野鳥のさえずりが登山者の目と耳を楽しませてくれます。

当事務所においても、人工林におけるクマ・シカの皮剥による植林木被害が国有林・民有林を問わず顕著にみられ、部分林契約地等における被害も深刻で、造林意欲の低下につながりはしないかと心配です。現在、平成21年度から5ヶ年計画で関東森林管理局において「クマ・シカとの共存に向けた生息環境等整備モデル事業」が塩那署・日光署で実施されており、当事務所においてもプロットが設置されました。皮剥の要因解明と被害の軽減及び生息環境の保全対策について検討がされているところです。

当署には二度目の勤務となりますが、前回と比較すると高齢化による林業事業体の解散や共用林野契約の更新を希望しない組合ができるなど、国有林とのつながりも少なくなりつつあるように感じます。諸先輩が培った地域との交流を、引き続き次の森林官へ渡せるよう地元関係者との人付き合いを大切にすると共に、地元自治体や住民要望等については、最優先で取り組んでいこうと思います。



川俣ダムと瀬戸合峡



獣害調査プロット

管内のいちおしスポット



平標山

■ 利根沼田森林管理署 http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tone_numata/index.html
〒378-0045 群馬県沼田市鍛冶町3923-1
TEL:0278-24-5535(代表) FAX:0278-24-5562



山頂へと向かう木道

このため、近年は四季を通じて登山者の姿が絶えることがありません。山開きの行われる6月初旬から、広いお花畑が広がる山頂を目指して、多くの登山者が訪れます。

谷筋の雪も消える7月後半になると、今度は群馬県側・新潟県側にある渓谷から涼と渓谷美を求める沢登りの人たちが山頂を目指すようになり、夏山登山の方々と合わせて山は最盛期を迎え、10月の紅葉期、山腹のブナ、稜線のナナカマドなどの灌木類が黄・赤に染まるまで多くの皆さんで賑わいが続きます。

特に近年は、なだらかな山稜、アプローチの良さなどの利点を使って冬季間の日帰り登山・山スキーなどが盛んに行われるようになりました。12月から5月の連休前までの休日、17号線を走ると登山口の駐車帯には必ず十数台の車が見られる状況で、年間を通じたこの山の人気度には目を見張るものがあります。

また、この平標山の群馬県側（南面）は関東森林管理局が日本自然保護協会と協定して生態系保全、野生動植物との共生を目指す森林作りを進める「赤谷プロジェクト」エリアとなっており、野鳥観測や自然観察、調査・研究などを行うボランティア、研究者の方々の活動も盛んに行われ、参画と協働の場としても多くの皆さんを迎えるエリアとなっています。

山頂に最も近い登山口までは関越道の月夜野I.C.から乗用車で約1時間の行程ですので、首都圏から日帰りでも十分に様々な活動・体験のできる平標山に、一度おいでになってみてください。



山開き(安全祈願)



涼を求める登山者

■ ■ 編 発
F T 行
A E 集
X L 所
(0 (0
2 2 総
7 7 関
)) 東
2 2 森
3 3 林
0 0 管
・ 理
1 1 局
3 3
9 5
3 8 課

(利根沼田森林管理署長 中澤 文彦)